

多様な主体との交流・共生による農山漁村再生事業

中山間地域の現状

中山間地域＝条件不利地域
・農林漁業の低迷
・2次産業等の進出が少ない

↓
・収入が少ない
・雇用の場がない

地域への誇り、愛着の希薄化

働き手の地域外への流出
(人口減少・高齢化進展)

コミュニティの維持が困難
(限界集落)

県に求められる役割

- ① 中山間地域での雇用の場の確保
- ② 地域での新たなビジネス創出への支援
- ③ 訪問者や地域の広域的なネットワーク構築
- ④ 広域的で一元的な情報発信

今までの取組・結果 ～グリーン・ツーリズムの推進～

雇用の場 確保支援

- 雇用の場として(例)
 - ・せいわの里まめや
 - ・大杉谷自然学校
 - ・ふるさと企画舎 など
- 主要交流施設利用者数(1.2倍)
H18; 3,542千人 → H21; 4,243千人

ビジネス支 援

- 農林漁業体験民宿開業数
H18; 2軒 → H22; 21軒
- 学年単位の子ども生活体験受入地域
H18; 1地域 → H22; 5地域
- 都市農山漁村交流マネジメントコーディネーター養成数(合計19人)
H21; 9人、H22; 10人

ネットワー ク構築推進

- 心豊かな里づくりネットワークの拡大
- 拠点施設が連携・ネットワーク化に動き始めた
・ルート166(国道166号沿線施設のネットワーク)
・みえ東紀州グリーンツーリズムコミュニティ など

情報発信

- 三重の里ファンクラブ会員
H18; 0人 → H22; 4,057人
- HPアクセス数(H20年3月開設)
H20; 87,409件
H21; 132,063件
H22; 207,444件

今後の取組の方向

広域ネット
ワーク化の
推進

新たなビジネス
プログラム開発

ビジネスの確立
支援

広域的で
一元的な
情報発信

高齢者、女性の生きがい

交流人口増、周遊時間増

三重の里でのビジネス構築
による雇用の場や所得機
会の確保

自立・発展できる地域づくり

取組は進むがまだ不十分

- ・都市住民への認知度が低い
- ・地域資源を活用する仕組が不十分
- ・人材育成が必要